

料金別納
郵便

地域の皆さまへ



上田市議会議員 **上田大好き** 齊藤達也

たっさんかい

達参会ニュース

2022年（令和4年）第20号



発行人 達参会（齊藤達也後援会）上田市中心2-20-12 討議資料
TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail : t.saito.koenkai@gmail.com

9月議会では7月末のゲリラ豪雨による水害出動の経験をもとに内水氾濫対策について質問しました。

【降雨や被害の状況についての答弁のまとめ】

- ・7月29日、30日ともに1時間降雨量で最大30mm超
- ・市街地の内水氾濫に関連した被害の主なものとしては、河川や道路側溝等からの溢水により床下浸水14件、河川の護岸崩落による建物毀損が1件、店舗や倉庫等の浸水被害が10件（その他、公共土木、河川、農業施設も被災）
- ・アメダス上田観測所の直近10年の1時間最大雨量の平均は約31.6ミリで、1985年までの10年と比べ1.4倍に増加
- ・全国の水害区域面積は直近5年と2004年までの5年と比べ約6.4倍に増加

→地球温暖化の影響から、上田市においてもゲリラ豪雨による水害リスクは高ってきています。

問 材木町の染谷第2公園にある蛭沢川調整池はどのように機能したか。また、調整池の課題とは何か。

答（都市建設部長）7月29日の集中豪雨では、貯水容量6,000m³の約半分程度の雨水を貯留したことより、一定の効果を発揮した。7月30日は、朝からポンプによる排水を実施していたが、再度集中豪雨が発生したため、排水を急遽中止し、約2,000m³を貯留したところで満水に近い状態となった。課題は、今回のように事前に水位を下げておく時間的な余裕がない場合、果たすべき雨水の貯留が十分にできなくなる場合があることから、ポンプ機能の向上を図る必要がある。また、蛭沢川の上流域に当たる押出川の流域を含めた神科地区南側から一帯の雨水排水を直接神川へ流下させる神科台排水路を整備しており、早期完了を目指す。

→答弁を受けて、日頃のメンテナンスや堆砂対策についても改善を求めました。

問 汚水が逆流する被害があったが、原因と対策は。

答（上下水道局長）地盤が周りよりも低い住宅周辺の下水道において汚水が逆流する被害が確認された。原因としては、ゲリラ豪雨により通常より大量の雨水が下水道施設に流れ込む、いわゆる雨天時浸入水が考えられる。

下水道管の老朽化でできたひび割れや隙間、マンホール蓋の破損部分などからの雨水流入が考えられることから、現場付近の下水道管路において、テレビカメラ調査を緊急で実施したところ、一部管路の破損箇所が確認できた。しかしながら、浸入水の量から考えると、今回確認できた場所以外にも原因があるものと考えられるため、引き続き調査を継続していく。

今回被害が出た区域に限らず、浸入水対策は重要なため、今後の対策としましては、主要な下水道幹線等の流量調査を行い、浸入水が多い地区を特定し、その地区の本管や取付管についてテレビカメラ調査を行い、早期に管路改修を施工していく。